

平成の御代 最後の春

いよいよ今春をもって、平成の御代が長き旅を終えようとしております。

平成元年(昭和六十四年)一月七日十四時三十六分に平成の元号が発表されてより三十一年間。皆様にはどのような年月でしたでしょうか。

その平成の元号は『史記』五帝本紀の「内平外成(内平かに外成る)」、『書経 偽古文尚書』大禹謨の「地平天成(地平かに天成る)」からとったもので「国の内外、天地とも平和が達成される」という意味をもった元号です。

その元号の通り、この平成の御代は日本国内においての戦争は一度もありませんでした。この平成の御代以外に日本で戦争の無かった直近の元号を調べますと、実に万延年間にまで遡り、これはベリー来航や、桜田門外の変のあった頃で、実に百五十年以上も遡ります。世界の変動めまぐるしいこの時代において、奇跡的な三十一年間であったといえるでしょう。

御代替わりは五月一日ですので、元号としては正式には五月からとなりますが、今回、社会状況に鑑み異例の事前公表との事で四月一日に元号が発表される予定です。

残りわずかとなった平成の御代。親しい人と三十一年間を振り返りながらともに語り合う一ヶ月間とされてみては如何でしょうか。

二代目 堂山大黒天 御遷座

当宮の氏地である堂山町の一角、阪急東中商店街に、小さな大黒さまのお像が祀りされています。これは元々小松原町あたりにあったのですが、戦災で焼け出され野ざらしとなっていたのを、堂山町の住民が可哀想との事で現在地にお遷しし、今に至っております。しかし、昨年、何者かによりお顔を壊されるという事件があり、壊れたままにはしておけないという事で、住民、商店の皆様が立ち上がり、この度、お像を新しく作り直し、二代目大黒天さまとして甦る事となりました。今月二十八日に御神霊を新しいお像へお遷しする遷座祭が執り行われる予定です。

御即位のはなし 斎宮・立太子の礼

平成の御代から新しき御代への御代替わりを控え、四月まで、御即位に関するお話を掲載してまいります。斎宮(さいぐう・いつきのみや)

現代では既に廃れてしまいましたが、鎌倉時代末期までは、天皇陛下の御代替わりの時などには、伊勢の神宮にお仕えする斎宮も改められる習わしでした。

斎宮とは、天皇陛下に代わって、未婚の内親王、または親王宣下を受けていない女王の中から選ばれ、正式には斎内親王、又は斎女王といい、それを總称して「斎王」と呼ばれ、伊勢の神宮にお仕えする斎王は斎宮、京都の下鴨・上賀茂社にお仕えする斎王は斎院と呼ばれました。(祭祭の斎王代とは斎王の代わりという意味です)

全国の神社の総氏神さまともいえる伊勢の神宮にお仕えする皇女でありますので、いうなれば全国の巫女の頂点といっても過言ではなく、そのお立場の重さから、斎宮の為の建物や諸制度が別に存在するなど、日本の神道思想の中でも特別神聖視されました。

最初の斎宮は古墳時代の豊鍬入姫命で、鎌倉時代末期の祥子内親王まで続きましたが、南北朝の乱で途絶し、明治時代になって神宮祭主として既婚者でも可という形で復興され、現在は今上陛下の皇女であられる立太子の礼

立太子の礼

新しき天皇陛下が即位の諸行事を納められた後、次の皇位継承者を宣明する行事として立太子礼が挙行されます。皇太子に選ばれた親王殿下は黄丹袍(おうにのほう)というオレンジ色をした束帯に身を包み、壺切御剣という皇太子の証となる剣を天皇陛下から授けられ、内外に皇太子となった事を宣制されます。今回は秋篠宮殿下が皇位継承者となられる事から、立太子ではなく、皇嗣殿下として立皇嗣の礼が来年四月に挙行される予定です。

今月の暦

【祭礼】

上巳祓(三日)：神事のみ ひなまつり
春季皇霊祭(廿一日)：神事のみ 祖先崇拜。豊稷祈願
菜種御供(廿五日)：神事のみ 御旅社

【節気】

啓蟄(六日)：冬籠りの虫が目覚めます頃。菖焼き
春分(廿一日)：昼夜等分の候

【雑節】

春の社日(廿二日)：産土神を詣る。ポケ封じの御縁日
春の彼岸(三月十八日・三月廿三日) お墓参り
旧初午(十日)：旧暦のお稲荷さんの御縁日。商売繁盛

【大安】

三月五日、十日、十六日、廿二日、廿八日

【祝日】

春分の日(廿一日)

網敷天神社 SNS、地図サイト



編著 網敷天神社 禰宜(御旅社 神主)
白江 秀 知